

良寛だより

第185号

令和6年7月1日

編集発行 全国良寛会

〒951-8112 新潟市中央区南浜通2
北方文化博物館新潟分館内
(振替00620-0-1545)お問い合わせ先 理事 本間 明
Tel 090-2488-8281印刷所 株式会社ウィザップ
(発送元) Tel 025-285-3311

「観音さまと良寛さま」

肅燦宝・画

上方に観世音菩薩を描き、下方に良寛像が描かれている。画賛には、良寛『法華賛』の観世音菩薩不門品中の一音が書かれている。



(出雲崎町良寛記念館蔵)

良寛様と柳津

リレーエッセー

良寛つれづれ34

井関 庄一

(柳津町良寛会会長)

「也奈伊津の香聚閣に宿りて早に興きて眺望す」

良寛様がここ柳津の圓藏寺を礼拝し、眺望するその絶景に心を奪われ、「香聚閣」とまで称するほど感動したとされています。私たちも、福満虚空藏菩薩圓藏寺の舞台に立ち、深呼吸をし、目を開くと、その目の前に広がる絶景パノラマはまさに「香聚閣」の文字のとおりで、ここに生きることを誇らしげ

に思います。

良寛様のご縁で三十七年前に新潟県出雲崎町と姉妹都市提携を締結し、両町の振興発展はもとより友好交流は多岐にわたり、益々広がり深まっております。私たち柳津町良寛会も出雲崎町を始めとしたゆかりの地を研修に訪れたり、良寛様についての学びを深めたりと研鑽努力を重ねております。

全国大会柳津大会の開催もあり、多くの良寛会の皆様と親交をさせていただいておりますが、その都度驚かされておりますのは、皆様が良寛様への親しみや熱い良寛愛をさらに深めようと思いを広げている姿で、心から感銘しているところでもあります。(5ページ下段に続く)

しゅくさんぼう (1903～1994年)

新潟県生まれ 本名水島太一郎 黒田清輝・小林古徑に師事する 異色日本画家として知られ花鳥・静物・人物画を得意とした

新刊紹介

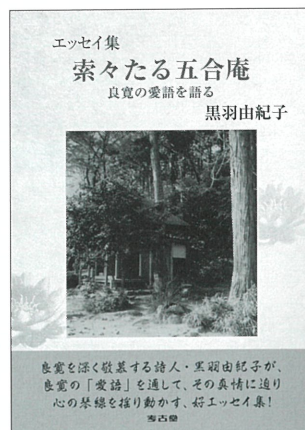
◎エッセイ集 索々たる五合庵―

良寛の愛語を語る

黒羽由紀子著 考古堂書店刊

二、二〇〇円（税込）

著者は「日本詩人クラブ」や「日本現代詩人会」など、全国区でご活躍の詩人であるが、特に良寛と貞心尼への思い入れが深く、今までに『形見とて何か残さむ―良寛思慕』『待ちにし人は来たりけり』の詩集も刊行しておいでで、今回は、詩歌では表現しきれない熱い想いをエッセイとして綴った。



昨春に訪れた五合庵への深い感動が「索々五合庵」として、良寛とともにある感激に変わり、表題のエッセイに結実したが、全編に流れる「他者を心から思いやる」という良寛の愛語のこころには「人のこころを変える魔法が潜んでいる」と実感した著者は、もう

「良寛だより」一八五号（令和六年七月一日） 目次

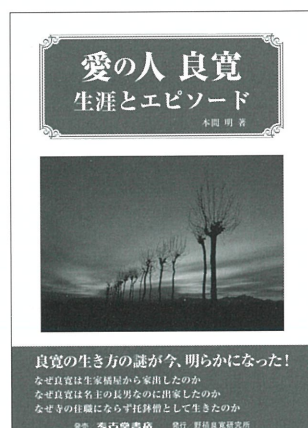
表紙絵「観音さまと良寛さま」 肅燦宝・画	井関 庄一	1
リレーエッセー（34）	小島 正芳	2
良寛遺墨鑑賞（三十三）「天上大風」	後藤田恵子	3
各地良寛会だより②③ 岡山県良寛会の巻①	4・5	5
第46回全国良寛会柳津大会 報告	阿部 玲子	6
全国良寛会総会 報告	寺本 小鳳	7
阿部定珍の西国・四国記行（上）	齋藤 達也	8
カナダケベック州で書道講座「白雲流水共依々」	丸岡 稔	9
田中泯「雪の良寛」に参加して	金子善八郎	10
私の中の良寛①	本間 明	11
相馬御風の良寛 三十三「災害時の警世言」	吉田 福恵	12
良寛を今に伝えた人々⑭ 原坦山	吉田 福恵	13
倉敷市玉島紀行	安達 武男・市川 恵	14
遺偈の読み	吉井 清一	15
令和五年度全国良寛会会務報告	本間 明	16
令和五年度決算報告、六年度予算	原田 俊機	17
全国良寛会役員会報告	吉井 清一	18
私の好きな良寛さん	吉井 清一	19
トピックス、会報・新刊紹介、新会員紹介、目次、編集後記	吉井 清一	20
良寛を訪ねて（34）阿部定珍への手紙①「お酒」	吉井 清一	20

良寛そのものに変身しているようである。

◎愛の人 良寛 生涯とエピソード

本間明著 考古堂書店発売

一、〇〇〇円（税込）



出家して仏門に入りながら、寺にも住まず、住職にもならず、貧しい農民に寄り添い、子どもたちと手まりや隠れんぼをして親しみ、さらに植物や鳥けだものまで、生きとし生けるものに思いやりの心を注いだ愛の人・良寛。本書は、その出生から、木村家での最後まで良寛の生涯を、史実をもとに的確に追いつながら、その時々興味深い良寛のエピソードを豊富に織り交ぜ、楽しいカラーのイラストや関連の写真多く添え、百六十頁余のハンディな冊子ながら、良寛の生き方の謎を明らかにし、良寛の生涯のすべてが分かる、良寛愛好者や学ぶ人にとって最適のガイドブックである。（以上 柳本 雄司）

新入会員のご紹介（敬称略）

小川 泰夫	新潟県新潟市
吉田 満	佐賀県嬉野市
上田 良穂	東京都大田区
永滝 ヤス子	埼玉県所沢市
仙海 直樹	新潟県三島郡
永寶 卓	新潟県柏崎市
小西 奈雅子	新潟県南魚沼郡
山田 英昭	新潟県燕市
古郡 祐蔵	京都府八幡市
佐藤 昭一	新潟県長岡市
◇お知らせ	柳津大会掲載のため発行が遅れました。

編集後記

大きく蛇行した只見川がゆっくり流れてゆき、崖の上には円蔵寺が凜とそそり立つ。良寛が心を打たれた円蔵寺からの美しい眺望は言うまでもないが、下から見る光景も素晴らしい。柳津町での全国大会は、参加者に楽しんでもらおうという実行委員の皆様のおもてなしと熱意が直に伝わり、心に残る大会になった。

「歩景」。何と詠むのだろうか、聞いたなら「あるけい」という。しゃれた名前だ。寺本小鳳さんが紹介した、四国お遍路を完歩したカナダ人の雅号である。歩くことに意義を見いだし、日本人でもその境地になることが難しい「白雲流水共依々」を自分の中で昇華させている。良寛の教えには国境はないのですね。（吉井 清一）